(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2017 年 8 月 17 日(17.08.2017)

WIPO | PCT

(10) 国際公開番号
WO 2017/138585 A1

(51) 国際特許分類:
A41B 1/08 (2006.01) *A41D 1/00* (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2017/004647

(22) 国際出願日: 2017 年 2 月 8 日(08.02.2017)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2016-023007 2016 年 2 月 9 日(09.02.2016) JP
実願 2016-004377 2016 年 9 月 7 日(07.09.2016) JP

(71) 出願人: 株式会社ジェット・カンパニー(JET-COMPANY, INC.) [JP/JP]; 〒2270062 神奈川県横浜市青葉区青葉台２－１１－２３・１Ｆ Kanagawa (JP).

(72) 発明者: ▲高▼▲崎▼ 茂(TAKASAKI, Shigeru); 〒2270062 神奈川県横浜市青葉区青葉台２－１１－２３・１Ｆ 株式会社ジェット・カンパニー内 Kanagawa (JP).

(74) 代理人: 辻田 朋子(TSUJITA, Tomoko); 〒2206008 神奈川県横浜市西区みなとみらい二丁目３番１号 クイーンズタワーＡ ８階 みなとみらい特許事務所内 Kanagawa (JP).

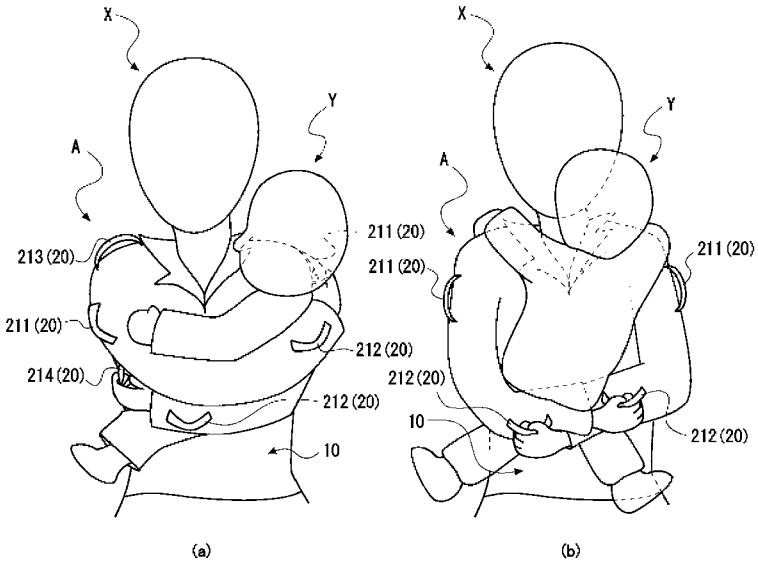
(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:
— 国際調査報告（条約第 21 条(3)）

(54) **Title**: GRIP-EQUIPPED UPPER WEAR

(54) 発明の名称 : 把持部付上衣



(57) **Abstract**: The present invention addresses the problem of providing hygienic grip-equipped upper wear that allows the wearer to smoothly set down a child being held by the wearer, and also assists in holding the child to reduce the load on the wearer. This grip-equipped upper wear is characterized by comprising an upper-wear body (10) that includes two sleeves, and grips (20) that are provided to the upper-wear body (10), wherein the grips (20) include a plurality of sleeve grips respectively provided to right and left sleeves (11). By thus providing the plurality of sleeve grips to the sleeves (11) of the upper-wear body (10), it is possible to reduce the load on a wearer (X) by allowing gripping of a sleeve grip at a position favorable for supporting a child (Y) being held or an object being carried so as to disperse the load directly applied to the arms.

(57) 要約:

[続葉有]

WO 2017/138585 A1

本発明は、抱き降ろしの動作をスムーズに行うことができ、抱っこを補助して着用者の負担を軽減することができ、且つ衛生的な把持部付上衣を提供すること、を課題とする。両袖を有した上衣本体（１０）と、この上衣本体（１０）に設けられる把持部（２０）と、を備え、前記把持部（２０）は、左右の袖（１１）にそれぞれ設けられる複数の袖把持部を有していることを特徴とする構成となっている。このように、上衣本体（１０）の袖（１１）に複数の袖把持部を有することにより、抱っこした子供（Ｙ）や持ち上げた荷物を支持するのに好ましい位置の袖把持部を把持し、腕に直接掛かる負荷を分散させて、着用者（Ｘ）の負担を軽減することができる。

明　細　書

発明の名称 ： 把持部付上衣

技術分野

[0001] 本発明は、上衣に把持部を設けた把持部付上衣に関する。

背景技術

[0002] 通常、子供を抱っこする際には、腕を中心に抱っこの体勢を作っている。例えば、図１ａに示すように、片腕に子供の両足又は尻を載せ、もう一方の腕で子供の背中等を支えるようにして抱きかかえている。しかしながら、このように腕を中心とした抱き方を続ける場合、子供が成長して１０ｋｇ以上になってくると、腕や手、肩への負担が大きい。さらに、活動が活発になる約１歳頃には、定期的な抱っこや長時間の抱っこを求めるようになるため、親への負担はさらに大きくなり、体力的に子供の要望を満たすことが難しいのが実状である。

[0003] このような親への負担を軽減するため、従来から抱っこ紐や子供キャリア等の子供の運搬を目的とした用具が数多く販売されている。しかしながら、これら抱っこ紐等の用具においては、子供を抱っこする必要が無いときに用具自体が大きな荷物となってしまうという問題があった。

このような問題を解決するために、子供を保持する保持手段を設けた上着が提案されている（例えば、特許文献１）。

[0004] 特許文献１には、「前身頃と後身頃からなる上着において、前身頃の下方位置で後身頃の下端縁よりも延出させた延長部を形成し、前身頃下端縁の上方に乳幼児の足を入れる一対の穴を形成し、前身頃の下端縁より延出させた延長部の最下端縁を折り返して袋状に保持する保持手段を備えた」抱っこ用上着の技術が記載されている。

[0005] この特許文献１に記載の抱っこ用上着は、通常の上着としても子供の抱っこを補助する上着としても利用できることが文献中に記載されている。そして、抱っこ紐や子供キャリア等の用具のように、着用者の身体から外して鞄

に入れたり手に持ったりする必要がなく、荷物になってしまうという不便さを解消できるとされている。

先行技術文献

特許文献

[0006] 特許文献1：特許第４８０９３９１号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0007] ところで、子供が成長して自分の足で歩けるようになってくると、活発に動き回りたいという欲求と、抱っこしてもらいたいという欲求が出てくる。そのため、子供は抱っこ中に動き回りたいと感じたり、動きまわっている最中に親の肌を恋しく感じたりする。その結果、親は頻繁に抱っこをせがまれるようになる。

[0008] 抱っこは言葉や表現が十分でない幼少期の子供にとって、親の愛情を感じられる極めて重要なスキンシップであり、コミュニケーションである。抱っこを求める子供には何かしらの理由や意図、欲求があり、抱っこを通じてそれを満たしている。なにより、抱っこを通じて子供の心を満たし、子供が愛されているという安心感を得ることが重要である。

[0009] 上述したような、頻繁に抱っこをせがまれる状態において、子供の要求に応えるためには、子供を抱っこする動作と子供を抱っこから降ろす動作（以下、抱き降ろしの動作という）を繰り返し行うこととなり、親への負担は極めて大きいものとなってしまう。そのため、親への負担を軽減するには、抱き降ろしの動作をスムーズかつ安全に行える必要がある。また、免疫の少ない子供においては、長時間触れるものを衛生的に保つ必要がある。

[0010] 特許文献１に記載の抱っこ用上着を用いた場合、確かに、抱っこ紐や子供キャリア等の用具のように、荷物になってしまうという不便さを解消できるものの、次のような問題があった。

[0011] 第１に、活発な子供の動きに合わせてスムーズに抱き降ろしの動作を行え

るものではないという問題である。すなわち、特許文献１に記載の抱っこ用上着においては、子供を抱っこする際や子供を抱っこから降ろす際に、子供を袋状の保持手段より高く抱き上げる必要があり、親への負担が大きくなってしまうという問題があった。

[0012] 第２に、安全に抱き降ろしの動作を行うことが難しいという問題である。すなわち、特許文献１に記載の抱っこ用上着においては、抱き降ろしの動作を行う際に、子供を袋状の保持手段より高く抱き上げる必要があるため、子供の落下事故のリスクが上昇してしまうことや、抱っこ中に寝ていた子供が起きてしまう、という問題があった。

[0013] 第３に、不衛生になりやすいという問題である。子供は抱っこ中に、涎や汗（寝汗）、糞尿によって用具を汚してしまうことが頻繁にある。しかしながら、特許文献１に記載の抱っこ用上着においては、様々な金属やプラスチック製のバックルやフックが複数装着されているため、洗濯機に入れて簡単に洗濯することができず、不衛生になりやすいという問題があった。

[0014] 本発明は、かかる実情に鑑み、抱き降ろしの動作をスムーズに行うことができ、抱っこの体勢を補助して着用者の負担を軽減することができる把持部付上衣を提供することを課題とする。

課題を解決するための手段

[0015] 上記課題を解決するため、本発明に係る把持部付上衣は、両袖を有した上衣本体と、この上衣本体に設けられる把持部と、を備え、前記把持部は、左右の袖にそれぞれ設けられる複数の袖把持部を有し、前記上衣本体は、長袖に形成されており、前記袖把持部は、上腕位置周辺に設けられる上腕把持部と、前腕位置周辺に設けられる前腕把持部と、を有していることを特徴とする。

[0016] このように、上衣本体の袖に複数の袖把持部を有することにより、抱っこした子供や持ち上げた荷物を支持するのに好ましい位置の袖把持部を把持し、腕に直接掛かる負荷を分散させて、着用者の負担を軽減することができる。

また、上衣本体に把持部を設けた構成であるため、従来の用具のように不使用時に荷物になることが無い。

さらに、子供や荷物を抱え込むだけで持ち上げることができるため、抱き降ろしの動作をスムーズに行うことができ、着用者の負担を軽減すると共に子供の落下事故のリスクを低減することができる。

加えて、上腕把持部と前腕把持部を有することにより、着用者が掴む把持部を選択することができ、着用者の好ましい体勢で子供や荷物を支持することができる。

[0017] 本発明の好ましい形態では、前記袖把持部は、袖口周辺に設けられる袖口把持部をさらに有していることを特徴とする。

このように、袖口周辺に袖口把持部を形成することにより、着用者が掴む把持部の選択肢を増やすことができ、着用者は好ましい体勢で子供や荷物を支持することができる。

[0018] 本発明の好ましい形態では、両袖を有した上衣本体と、この上衣本体に設けられる把持部と、を備え、前記把持部は、左右の袖にそれぞれ設けられる複数の袖把持部を有し、前記上衣本体は、半袖に形成されており、前記袖把持部は、上腕位置周辺に設けられる上腕把持部と、袖口周辺に設けられる袖口把持部と、を有していることを特徴とする。

このように、袖口に袖口把持部を設けることにより、半袖の上衣本体においても、抱き降ろしの動作をスムーズに行うことができ、着用者の負担を軽減することができる。

[0019] 本発明の好ましい形態では、前記袖口把持部は、袖口に接続される基端と、自由端と、を有し、前記袖口には、前記自由端を固定する固定手段が設けられていることを特徴とする。

このように、袖口把持部が自由端を有していることにより、袖口から離れた位置で把持部をつかむことができ、より好ましい体勢で子供や荷物を支持することができる。

また、袖口把持部の自由端を上衣本体の半袖に固定する固定手段を有する

ことにより、袖口把持部を使用しないときには、自由端が動かないよう固定することができる。

[0020] 本発明の好ましい形態では、前記把持部は、肩口位置周辺に設けられる肩口把持部と、脇下位置周辺に設けられる脇下把持部と、腰横位置周辺に設けられる腰横把持部と、をさらに有していることを特徴とする。

このように、肩口把持部、脇下把持部および腰横把持部を有することにより、着用者が掴む把持部の選択肢を増やすことができ、着用者はより好ましい体勢で子供や荷物を支持することができる。

[0021] 本発明の好ましい形態では、前記把持部は、胸位置周辺に設けられる胸把持部と、胸下位置周辺に設けられる胸下把持部と、胸下腹部位置周辺に設けられる胸下腹部把持部と、をさらに有していることを特徴とする。

このように、胸把持部、胸下把持部および胸下腹部把持部を有することにより、着用者が掴む把持部の選択肢を増やすことができ、着用者はより好ましい体勢で子供や荷物を支持することができる。

[0022] 本発明の好ましい形態では、前記把持部は、背中位置周辺に設けられる背中把持部をさらに有していることを特徴とする。

このように、背中把持部をさらに有することにより、抱っこされる人（被介護者）が捕まることにより、着用者の負担を軽減することができる。

[0023] 本発明の好ましい形態では、前記把持部の間に架け渡される補助帯体をさらに備え、前記補助帯体は、左側の袖把持部から右側の袖把持部まで架け渡される腕側面補助帯体を有していることを特徴とする。

このように、左側の袖把持部から右側の袖把持部まで架け渡される腕側面補助帯体を有していることにより、上衣本体の強度を高めることができる。

[0024] 本発明の好ましい形態では、前記補助帯体は、左側の肩口把持部から右側の腰横把持部まで架け渡される第１の背面補助帯体と、右側の肩口把持部から左側の腰横把持部まで架け渡される第２の背面補助帯体と、左側の肩口位置周辺から左側の腰横把持部まで架け渡される左腹側面補助帯体と、右側の肩口位置周辺から右側の腰横把持部まで架け渡される右腹側面補助帯体と、

をさらに有していることを特徴とする。

このように、複数の補助帯体を有することにより、上衣本体の強度をさらに高めることができる。

[0025] 本発明の好ましい形態では、前記把持部は、帯状に形成された帯状把持部を有し、前記帯状把持部の両端が前記上衣本体に固定されていることを特徴とする。

このように、把持部として帯状把持部を採用することにより、本発明に係る把持部付上衣を容易に製造することができる。

[0026] 本発明の好ましい形態では、前記把持部は、少なくとも１つの指を差込可能な切れ込み部を有していることを特徴とする。

このように、把持部として切れ込み部を採用することにより、握る動作を行うことなく抱っこの体勢を補助して、着用者の負担を軽減することができる。すなわち、この切れ込み部に指又は手を差し込むだけで、指や手首の重力方向側が切れ込み部の一端と引っかかり、自然に指又は手が差込部位置に保持されることとなる。

また、このように上衣本体の生地に切れ込み部を形成する構成とすることにより、上衣のデザインの幅を大幅に広げることができる。すなわち、切れ込み部に指又は手を差し込む構成としたことにより、把持部等が上衣の表面に露出しないため、通常の上衣と同様にデザインを行うことができる。

[0027] 本発明の好ましい形態では、前記把持部は、前記切れ込み部に接続される袋部をさらに有していることを特徴とする。

このように、袋部を切れ込み部に接続することにより、着用者の手と接触する面積を広げ、力を分散させることができる。その結果、一か所のみに力が集中して指や手首を痛めてしまうことを抑制することができる。

[0028] 本発明の好ましい形態では、前記上衣本体に着脱可能な把持部を有する把持部付補助ベルトをさらに備えていることを特徴とする。

このように、上衣本体に着脱可能な把持部付補助ベルトを有することにより、把持部付補助ベルトの取付位置を調節して、着用者や被介護者に必要な

位置に把持部を配置することができる。

[0029] 本発明の好ましい形態では、前記上衣本体及び前記把持部は、洗濯可能な布地で形成されていることを特徴とする。

このように、上衣本体と把持部が、洗濯可能な布地で形成されていることにより、容易に洗濯することができ、把持部付上衣を衛生的に保つことができる。

発明の効果

[0030] 本発明は、抱き降ろしの動作をスムーズに行うことができ、抱っこの体勢を補助して着用者の負担を軽減することができる把持部付上衣を提供することができる。

図面の簡単な説明

[0031] [図1]本発明の実施形態１に係る把持部付上衣の使用状態を示す正面図である。

[図2]本発明の実施形態１に係る把持部付上衣の斜視図である。

[図3]本発明の実施形態２に係る把持部付上衣の使用状態を示す正面図である。

[図4]本発明の実施形態２に係る把持部付上衣の正面図及び側面図である。

[図5]本発明の実施形態２に係る把持部付上衣の把持部の拡大図である。

[図6]本発明の実施形態２に係る把持部付上衣の袖口の拡大図である。

[図7]本発明の実施形態３に係る把持部付上衣の斜視図である。

[図8]本発明の実施形態３に係る把持部付上衣の斜視図である。

[図9]本発明の実施形態３に係る把持部付上衣の袖口の拡大図である。

[図10]本発明の実施形態４に係る把持部付上衣の正面図及び側面図である。

[図11]本発明の実施形態４に係る把持部付上衣の斜視図である。

[図12]本発明の実施形態５に係る把持部付上衣の斜視図である。

[図13]本発明の実施形態５に係る把持部付上衣の背面図である。

[図14]本発明の実施形態６に係る把持部付上衣の背面図である。

[図15]本発明の実施形態７に係る把持部付上衣の斜視図及び背面図である。

発明を実施するための形態

[0032] 以下、本発明を図面に示した好ましい実施形態１～７について詳細に説明する。本発明の技術的範囲は、添付図面に示した実施形態に限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載された範囲内において、適宜変更が可能である。

[0033] ＜実施形態１＞

本発明の実施形態１に係る把持部付上衣Ａは、長袖の上衣本体１０と、この上衣本体１０に設けられる複数の把持部２０と、を備えている。この把持部付上衣Ａは、図１に示すように、子供Ｙを抱っこする際や荷物を運搬する際に、把持部付上衣Ａの着用者Ｘが任意の把持部２０を掴むようにして使用し、着用者Ｘの腕への負担を軽減するものである。図１（ａ）は上腕や脇下に位置する把持部２０（上腕把持部２１１及び脇下把持部２１４）を掴むことで、図１（ｂ）は前腕に位置する把持部２０（前腕把持部２１２）を掴むことで、腕への負担を軽減している様子を示している。

[0034] 上衣本体１０は、図２に示すように、袖１１が設けられており、この袖１１は長袖に形成されている。図２においては、上衣本体１０として、ティーシャツを示したが、長袖の上衣であるアウターウェアであればよい。例えば、シャツやカットソー、ジャケット、コート、セーター、カーディガン、チュニック、スウェット等を例示することができる。

また、この上衣本体１０の材料としては、洗濯可能な布地等で形成されていることが望ましいが、通常アウターウェアに使用される材料であれば当然に利用することができる。

[0035] 把持部２０は、帯状に形成された帯状把持部２１０を有し、この帯状把持部２１０の両端が上衣本体１０に固定された構成となっている。

なお、この把持部２０の形状としては、着用者Ｘが手の平で把持することが可能な形状であれば良い。すなわち、帯状（帯状把持部２１０）の他に、環状や紐状のものを例示することができる。また、この把持部２０は、縫い付けて固定されることが望ましいが、接着材等の接着手段を用いても良い。

加えて、この把持部２０を、上衣本体１０とは異なる色に着色して、洋服のデザインのアクセントとして利用しても良い。

なお、この把持部２０の材料は、上衣本体１０と同様に、洗濯可能な布地等で形成されていることが望ましいが、通常アウターウェアに使用される材料であれば当然に利用することができる。

[0036] 帯状把持部２１０は、図２に示すように、左右の上腕位置周辺に設けられる上腕把持部２１１と、左右の前腕位置周辺に設けられる前腕把持部２１２と、左右の肩口位置周辺に設けられる肩口把持部２１３と、左右の脇下位置周辺に設けられる脇下把持部２１４と、左右の腰横位置周辺に設けられる腰横把持部２１５と、を有している。

[0037] 上腕把持部２１１は、上衣本体１０の上腕外側面側に設けられており、上腕把持部２１１の一端が肩口側に、他端が肘側に、それぞれ固定されている。

前腕把持部２１２は、上衣本体１０の前腕背側面側に設けられており、前腕把持部２１２の一端が肘側に、他端が手首側に、それぞれ固定されている。

この上腕把持部２１１と前腕把持部２１２は、上衣本体１０の袖１１に設けられる袖把持部である。

[0038] 肩口把持部２１３は、上衣本体１０の肩口の上面側に設けられており、肩口把持部２１３の一端が首側に、他端が上腕側に、それぞれ固定されている。

脇下把持部２１４は、上衣本体１０の脇から腰にかかる部分に設けられており、脇下把持部２１４の一端が脇側に、他端が腰側にそれぞれ固定されている。

腰横把持部２１５は、上衣本体１０の腰の側面位置に設けられており、腰横把持部２１５の一端が脇側に、他端が大腿側にそれぞれ固定されている。

また、これらの肩口把持部２１３、脇下把持部２１４及び腰横把持部２１５は、着用者Ｘが把持しやすいように、上衣本体１０の後ろ身頃側に設けら

れていることが望ましい。

[0039] なお、帯状把持部２１０を例に挙げて、上腕把持部、前腕把持部、肩口把持部、脇下把持部及び腰横把持部の位置を説明したが、これらは把持部２０の位置を示すものであり、帯状把持部２１０に限定されるものではない。他の種類の把持部２０を採用することが当然に可能である。

[0040] 本発明によれば、持ち運びが必要な用具（抱っこ紐や子供キャリア等）を使用することなく、子供Ｙの抱っこ時における着用者Ｘへの負担を軽減することができる。すなわち、上衣本体１０に把持部２０が設けられていることにより、子供Ｙの抱っこ時に把持部２０を掴むことで、腕に直接掛かる負荷を、背中を含めた上半身全体に分散させることができる。このため、用具等を使用することなく、長時間の間疲れずに子供Ｙを抱っこすることができる。

また、この把持部２０は、子供Ｙが掴む所として利用することができる。すなわち、子供Ｙ自身が把持部２０を掴むことで、着用者Ｘに容易に掴まることができ、さらに着用者Ｘの負担を軽減することができる。

[0041] また、本発明によれば、子供Ｙの抱き降ろしの動作をスムーズに行うことができる。すなわち、抱っこ紐や子供キャリア等の用具を使用する場合には、子供に紐を取付けたり、子供キャリアに固定する必要があったが、本発明の把持部付上衣を使用する場合には、子供と抱き合うだけで、本発明の抱っこの体勢を作ることができる。そのため、子供Ｙに用具を取付けたり、高い位置に抱き上げることなく、スムーズに抱っこの体勢を作ることができ、着用者Ｘの負担を軽減することができる。

特に、頻繁に抱っこをせがまれる時期には、抱っこ動作時の親の負担を軽減することにより、子供Ｙの要求に存分に応えることができ、子供Ｙは親の愛情を存分に感じることができる。

また、本発明によれば、子供Ｙの抱き降ろしの動作を安全に行うことできる。すなわち、抱き降ろしの動作の際に、子供を袋状の保持手段より高く抱き上げる必要が無いため、子供Ｙの落下事故のリスク低減させることができ

る。

[0042] また、本実施形態によれば、把持部２０に帯状把持部２１０を採用することにより、手の平や指にかかる負担を軽減することができる。すなわち、長時間の間、把持部２０を握る場合には、腕は疲れなくとも握力を維持するために、手の平や指に大きな負荷がかかってしまう。そのため、把持部２０を帯状に形成し両端を固定することで、把持部２０の帯状箇所に手の平や指を通して引っ掛けることができるため、手の平や指にかかる負担を軽減することができる。

また、本実施形態によれば、帯状把持部２１０を取付けるだけで、容易に製造することができる。

[0043] また、本発明によれば、上衣本体１０および把持部２０の材料が、洗濯可能な布地で形成されていることにより、把持部付上衣を衛生的に保つことができる。すなわち、子供Ｙの涎や汗（寝汗），糞尿等で、把持部付上衣が汚れてしまった場合であっても、簡単に洗濯機に入れて洗濯することができ、把持部付上衣を衛生的に保つことができる。

[0044] また、本発明によれば、従来の抱っこ紐や子供キャリアと異なり、通常の衣服のデザインと変わりがないため、把持部付上衣の着用の違和感を低減することができる。すなわち、「抱っこ紐がかっこ悪いから抱っこしない」というような親に対し、より多く子供の抱っこ（子供とのコミュニケーション）を促すきっかけを作ることができる。

[0045] また、本発明に係る把持部付上衣は、荷物の持ち運びを行う際にも適用することができる。すなわち、本発明は子供Ｙを抱っこする時のみに限られず、重量のある荷物を運搬する際にも把持部２０を掴むことで、腕に直接掛かる負荷を分散させることができる。

[0046] ＜実施形態２＞

以下、本発明の実施形態２に係る把持部付上衣Ｂについて、図３ないし図６を参照して詳細に説明する。この実施形態２に係る把持部付上衣Ｂは、先の実施形態１に係る把持部付上衣Ａとは異なる把持部２０を有していること

を特徴とする。なお、同実施形態において、先の実施形態と基本的に同一の構成要素については、同一の符号を付してその説明を簡略化する。

[0047] 本発明の実施形態２に係る把持部２０は、少なくとも１つの指を差込可能な切れ込み部２２０１を有する差込部２２０を備えている。

図３（ａ）は脇下に位置する差込部２２０（脇下差込部２２４）に指を差し込むことで、図３（ｂ）は前腕周辺位置に配置される差込部２２０（前腕差込部２２２）に手首を差し込むことで、それぞれ腕への負担を軽減している様子を示している。

図４は実施形態２に係る把持部付上衣Ｂの外形を示しており、図４（ａ）は正面図を、図４（ｂ）は側面図を示している。

[0048] 差込部２２０は、切れ込み部２２０１と、この切れ込み部２２０１と接続される袋部２２０２と、を有している。すなわち、この差込部２２０は、全体としてポケット状に構成されており、この袋部２２０２内に小物を収納することも可能である。

[0049] 切れ込み部２２０１は、上衣本体１０の生地に切れ込みを設けることで形成されている。この切れ込み部２２０１の両端部は、負荷がかかっても破れてしまわないよう補強されていることが望ましい。この切れ込み部２２０１は、少なくとも１つの指を差し込める長さに形成されており、複数の指を挿入可能な長さに形成されていてもよいし、手首が挿入可能な長さに形成されていてもよい。また、周辺位置に複数の切れ込み部２２０１を設けて、各指が別々に挿入できるように構成することも可能である。

[0050] 袋部２２０２は、図５に示すように、切れ込み部２２０１の開口長さに合わせた袋口が形成されており、この切れ込み部２２０１と接続してポケット状に形成されている。この袋部２２０２の袋口には、固定手段２３を設けてもよく、この差込部２２０を利用しない時には固定手段２３によって差込部２２０が開かないよう固定可能に構成されていることが望ましい。

[0051] また、袋部２２０２は、指や手の平が十分に奥まで入るように、３ｃｍ～７ｃｍ程度の深さを有していることが望ましい。さらに、図４及び図５では

、着用者の前面に向かって袋部２２０２が深くなるように設置されているが、反対方向である後面に向かって深くなるように配置されていてもよい。その場合には、図３（ａ）及び図３（ｂ）に示すように、着用者の手の指先が背中に向かうように差し込まれることとなる。すなわち、袋部２２０２の向きは、上衣本体１０の前面方向にも後面方向にも設定することができ、指や手の平をフック状にしてひっかけるときは前面方向に、指や手の平をストレートにして差し込むときは後面方向に倒されている。

[0052] 差込部２２０は、子供Ｙを抱っこしたり荷物を抱える際に、補助があると好ましい位置に配置されている。すなわち、図４に示すように、左右の上腕周辺位置に設けられる上腕差込部２２１と、左右の前腕周辺位置に設けられる前腕差込部２２２と、肩口周辺位置に設けられる肩口差込部２２３と、脇下周辺位置に設けられる脇下差込部２２４と、腰横周辺位置に設けられる腰横差込部２２５と、を有している。

[0053] 上腕差込部２２１は、上腕外側面側に設けられており、上腕差込部２２１の一端が肩口側に、他端が肘側に、それぞれ配置されている。

前腕差込部２２２は、前腕背側面側に設けられており、前腕差込部２２２の一端が肘側に、他端が手首側に、それぞれ配置されている。また、この前腕差込部２２２は、袖口１１ａと平行な切れ込みとなるように形成してもよい（図３（ｂ）参照）。

[0054] 肩口差込部２２３は、肩口の上面側に設けられており、肩口差込部２２３の一端が首側に、他端が上腕側に、それぞれ配置されている。

脇下差込部２２４は、脇の下から腰にかかる部分に設けられており、脇下差込部２２４の一端が脇の下側に、他端が腰側にそれぞれ配置されている。

腰横差込部２２５は、腰の側面位置に設けられており、腰横差込部２２５の一端が脇の下側に、他端が大腿側にそれぞれ配置されている。

また、肩口差込部２２３、脇下差込部２２４及び腰横差込部２２５は、着用者が差し込みやすいように、上衣本体１０の後ろ身頃側に設けられていることが望ましい。

なお、これらの差込部２２０は、着用者の指や手が差し込みやすいよう、切れ込み部２２０１の角度や、袋部２２０２の深さ等、適宜変更することができる。

[0055] また、把持部２０として、袖口１１ａに袖口把持部３０をさらに設けてもよい。

袖口把持部３０は、図６に示すように、袖口１１ａに固定される基端と、自由端と、を有し、袖口１１ａから手指の方向に延びるように形成されている。この袖口把持部３０は、袖口１１ａから垂れるように設けられているため、袖口１１ａから離れた箇所で把持することができる。そして、この袖口把持部３０と袖１１には、袖口把持部３０を袖１１に固定するための固定手段３１が設けられている。

[0056] 固定手段２３，３１として、図５及び図６においては、スナップボタンを例示したが、面ファスナーやボタン等の慣用手段を採用することが当然に可能である。なお、図６においては、固定手段３１を袖１１の内側に設けた例を示したが、これに限られず、袖１１の外側に設けても良い。

[0057] 本実施形態によれば、上衣本体１０の生地に切れ込み部２２０１を形成することにより、この切れ込み部２２０１に指や手を差し込むだけで、握力の弱い人でも疲れることなく抱っこの体勢を補助して、着用者の負担を軽減することができる。すなわち、この切れ込み部２２０１に指又は手を差し込むことにより、指や手の付け根部分の重力方向側が、切れ込み部２２０１の縁部に引っかかり、自然に指又は手首が保持されることとなる。その結果、握る動作を行うことなく、腕に掛かる負荷を上半身全体に分散させることができ、長時間疲れずに子供を抱っこすることができる。

[0058] さらに、この切れ込み部２２０１は、指や手の平を引っ掛けるほかに、実施形態１の帯状把持部２１０と同様に掴むこともできる。すなわち、切れ込み部２２０１に親指以外の４本指を差し込み、親指と４本指とで切れ込み部２２０１を握ることができる。そのため、子供Ｙをしっかり抱きたいときは握り、疲れた時には差し込んで保持する、といったように、着用者Ｘの状況

に応じて選択することができる。

[0059] また、本実施形態によれば、切れ込み部２２０１に接続する袋部２２０２を有することにより、指や手首にかかる負担を軽減することができる。すなわち、切れ込み部２２０１を設けただけでは、指や手首と切れ込み部２２０１の縁部とが接触する一か所のみに力が集中してしまい、指や手首を痛めてしまう恐れがある。そこで、袋部２２０２を設け、袋部２２０２の内側に指や手首が接触する構成とすることにより、指や手を大面積で受け止め、力を分散させることができる。さらに、この袋部２２０２は、小物を収納するポケットとして使用することもできる。

[0060] また、本実施形態によれば、差込部２２０を切れ込み部２２０１により形成することにより、上衣のデザインの幅を大幅に広げることができる。すなわち、切れ込み部２２０１に指又は手首を差し込む構成としたことにより、把持部２０が上衣本体１０の表面に露出しない。そのため、通常の上衣と同じように、高い自由度で上衣のデザインを行うことができる。

[0061] また、本実施形態によれば、切れ込み部２２０１に固定手段２３を設けたことにより、切れ込み部２２０１が勝手に開いて、裏地が見えてしまうことを抑制し、上衣のデザインを損なってしまうことを防止することができる。すなわち、着用者Ｘが動くたびに上衣本体１０の生地に力が加わり、切れ込み部２２０１が開く可能性があるが、固定手段２３を設けることにより、切れ込み部２２０１の開口部を固定して、裏地等が露出してしまうことを抑制することができる。

[0062] また、本実施形態によれば、袖口把持部３０は、袖口１１ａに固定される基端と、自由端と、を有し、袖口１１ａから腕の肘方向に延びるように形成されてことにより、より様々な体勢で子供や荷物を支持することができる。すなわち、袖から離れたところに袖口把持部３０を形成することができるため、身長の高い子供Ｙや大きな荷物を抱える際にも対応することができる。

[0063] また、本実施形態によれば、固定手段３１によって袖１１に袖口把持部３０の自由端を固定することにより、袖口把持部３０を使用しない時に自由端

が動いてしまうことを防ぐことができる。すなわち、袖口把持部３０を使用しない時に、袖口把持部３０の自由端が固定されていない場合には、着用者Ｘの手の平に向かって垂れ下がっているため、着用者が動くたびに自由端が手の平に接触して煩わしく感じてしまう場合がある。そのため、固定手段３１を設けることにより、自由端が手の平に接触することを防いで、煩わしさを解消することができる。

[0064] ＜実施形態３＞

以下、本発明の実施形態３に係る把持部付上衣Ｃについて、図７ないし図９を参照して詳細に説明する。この実施形態３に係る把持部付上衣Ｃは、先の実施形態に係る把持部付上衣とは異なり、半袖の上衣本体４０を備えることを特徴とする。なお、同実施形態において、先の実施形態と基本的に同一の構成要素については、同一の符号を付してその説明を簡略化する。

[0065] 本発明の実施形態３に係る把持部付上衣Ｃは、半袖の袖４１を有する上衣本体４０と、この上衣本体４０に設けられる複数の把持部２０と、を備えている。

図７は把持部２０に帯状把持部２１０を採用した様子を、図８は把持部２０に差込部２２０を採用した様子を、それぞれ示している。図９は、左右の袖口４１ａ周辺の拡大図であり、袖口４１ａに設けられる袖口把持部３０及び固定手段３１を示している。

[0066] 図７及び図８においては、上衣本体４０として、ティーシャツを示したが、半袖の上衣であれば当然に採用することができる。例えば、シャツやカットソー、スウェット等を例示することができる。

[0067] また、固定手段３１としては、図９に示すように、面ファスナーやスナップボタンを例示することができる。図９（ａ）は、面ファスナーによって袖口把持部３０を、袖４１の内側に固定する様子を示しており、図９（ｂ）は、面ファスナーによって袖口把持部３０を袖４１の内側に固定した様子を示している。

また、図９（ｃ）は、スナップボタンによって袖口把持部３０を、袖４１

の内側に固定する様子を示しており、図９（ｄ）は、スナップボタンによって袖口把持部３０を、袖４１の内側に固定する様子を示している。

なお、図９においては、固定手段３１を袖４１の内側に設けた例を示したが、これに限られず、袖４１の外側に設けても良い。固定手段３１として、面ファスナーとスナップボタンを例示したが、これに限られず、ボタン等の慣用手段を用いても良い。

[0068] 本実施形態によれば、袖口把持部３０を袖口４１ａに設けることにより、半袖の上衣本体４０に対しても、本発明を適用することが出来る。すなわち、袖口４１ａから袖口把持部３０を引き出して、子供Ｙの抱っこ時に袖口把持部３０を掴むことで、腕に直接掛かる負荷を、背中を含めた上半身全体に分散させることができる。このため、用具等を使用することなく、長時間の間疲れずに子供Ｙを抱っこすることができる。

このように、半袖の上衣本体４０においても、本発明を適用することが可能である。そのため、夏など熱い時期に適用可能な把持部付上衣を提供することができる。

[0069] ＜実施形態４＞

以下、本発明の実施形態４に係る把持部付上衣Ｄについて、図１０及び図１１を参照して詳細に説明する。この実施形態４に係る把持部付上衣Ｄは、上衣本体１０の前身頃に把持部２０が設けられていることを特徴とする。なお、同実施形態において、先の実施形態と基本的に同一の構成要素については、同一の符号を付してその説明を簡略化する。

[0070] 本発明の実施形態４に係る把持部付上衣Ｄの把持部２０は、上衣本体１０の胸位置周辺に設けられる胸差込部２２６と、上衣本体１０の胸下位置周辺に設けられる胸下差込部２２７と、上衣本体１０の胸下腹部位置周辺に設けられる胸下腹部差込部２２８と、をさらに有している。

[0071] 図１０は、これら胸差込部２２６、胸下差込部２２７及び胸下腹部差込部２２８を長袖の上衣本体１０に設けた例を示しており、図１１は、半袖の上衣本体４０に設けた例を示している。

なお、図１０及び図１１においては、差込部２２０で形成した例を示したが、帯状把持部２１０で形成することも当然に可能である。

[0072] 胸差込部２２６（胸把持部２１６）は、胸差込部２２６の一端が首側に、他端が脇側に、それぞれ配置されている。そのため、この胸差込部２２６は、首側の一端から脇側の他端に向かって斜めに形成されている。

胸下差込部２２７（胸下把持部２１７）及び胸下腹部差込部２２８（胸下腹部把持部２１８）は、上方から下方に向かって形成されている。

[0073] ＜実施形態５＞

以下、本発明の実施形態５に係る把持部付上衣Ｅについて、図１２及び図１３を参照して詳細に説明する。この実施形態５に係る把持部付上衣Ｅは、複数の把持部２０間に架け渡される補助帯体５０をさらに備えることを特徴とする。なお、同実施形態において、先の実施形態と基本的に同一の構成要素については、同一の符号を付してその説明を簡略化する。

[0074] 本発明の実施形態５に係る把持部付上衣Ｅは、図１２に示すように、袖１１を有する上衣本体１０と、この上衣本体１０に設けられる複数の把持部２０と、この把持部２０の間に架け渡される補助帯体５０と、を備えている。

[0075] 補助帯体５０は、図１３に示すように、左側の前腕把持部２１２（２１２Ｌ）から右側の前腕把持部２１２（２１２Ｒ）まで架け渡される腕側面補助帯体５１と、左側の肩口把持部２１３（２１３Ｌ）から右側の腰横把持部２１５（２１５Ｒ）まで架け渡される第１の背面補助帯体５２と、右側の肩口把持部２１３（２１３Ｒ）から左側の腰横把持部２１５（２１５Ｌ）まで架け渡される第２の背面補助帯体５３と、腕側面補助帯体５１の左側の肩口位置周辺から左側の腰横把持部２１５（２１５Ｌ）まで架け渡される左腹側面補助帯体５４と、腕側面補助帯体５１の右側の肩口位置周辺から右側の腰横把持部２１５（２１５Ｒ）まで架け渡される右腹側面補助帯体５５と、を有している。

[0076] この補助帯体５０は、上衣本体１０の表面に設けられても良いし、裏面に設けられていても良い。また、この補助帯体５０の材質としては、上衣本体

１０の生地以上の強度を有していることが望ましい。

[0077] 本実施形態によれば、補助帯体５０を設けることにより、上衣本体１０の生地が傷んでしまうことを抑制することができる。すなわち、補助帯体５０を設けない場合には、子供Ｙを抱っこする度に、上衣本体１０の生地に負荷がかかり、上衣本体１０は使用を繰り返す内に生地が伸びてしまったり、劣化してしまうという問題がある。しかしながら、補助帯体５０を設けることにより、負荷のかかる部分を補強して、上衣本体１０の生地が傷んでしまうことを抑制することができる。

[0078] また、本実施形態では、上衣本体１０が長袖の場合を例示したが、半袖の上衣本体１０にも当然に適用することができる。

[0079] ＜実施形態６＞

以下、本発明の実施形態６に係る把持部付上衣Ｆについて、図１４を参照して詳細に説明する。この実施形態６に係る把持部付上衣Ｆは、上衣本体１０の背中周辺位置に設けられる背中把持部２１９をさらに備えることを特徴とする。なお、同実施形態において、先の実施形態と基本的に同一の構成要素については、同一の符号を付してその説明を簡略化する。

[0080] 本発明の実施形態６に係る把持部付上衣Ｆは、先の実施形態の把持部２０に加え、図１４に示すように、上衣本体１０の背中周辺位置に設けられる背中把持部２１９をさらに備えている。

[0081] 背中把持部２１９は、手で把持することが可能な形状であれば良く、帯状や環状、紐状のものを例示することができる。図１４（ａ）に示すように、帯状の背中把持部２１９を用いる場合には、背中把持部２１９の両端を上衣本体１０に固定して取り付けることが望ましい。また、背中把持部２１９は、縫い付けて固定されることが望ましいが、接着材等の接着手段を用いても良い。

[0082] 図１４（ｂ）は、差込部２２０を採用した背中差込部２２９を示している。この背中差込部２２９は、前述した差込部２２０と同様に、切れ込み部２２９１と、この切れ込み部２２９１と接続される袋部２２９２と、を有して

いる。すなわち、この背中差込部２２９は、全体としてポケット状に構成されている。

[0083] 本実施形態によれば、例えば、着用者Ｘが被介護者Ｚを移動させる際等に、被介護者Ｚが背中把持部を把持することにより、介護者である着用者Ｘのサポートを行うことができる。また、図１４においては、上衣本体１０が長袖の場合を例示したが、半袖の上衣本体４０にも当然に適用することができる。

＜実施形態７＞

以下、本発明の実施形態７に係る把持部付上衣Ｇについて、図１５を参照して詳細に説明する。この実施形態７に係る把持部付上衣Ｇは、把持部付補助ベルト６０をさらに備えることを特徴とする。なお、同実施形態において、先の実施形態と基本的に同一の構成要素については、同一の符号を付してその説明を簡略化する。

[0084] 本発明の実施形態７に係る把持部付上衣Ｇは、長袖の上衣本体１０と、この上衣本体１０に設けられる複数の把持部２０と、上衣本体１０の腰周辺に巻かれる着脱可能な把持部付補助ベルト６０と、を備えている。

[0085] この把持部付補助ベルト６０は、ベルト本体６１と、このベルト本体６１に設けられる複数のベルト把持部６２と、を有している。

ベルト本体６１は、通常のベルトと同様に高い強度を有する材料で形成されており、上衣本体１０に着脱可能な構成となっている。

ベルト把持部６２は、ベルト本体６１の外周位置に配置されており、被介護者Ｚが把持して、着用者Ｘをサポート可能なよう構成されている。

[0086] 本実施形態によれば、把持部付補助ベルト６０を備えることにより、被介護者Ｚの身長や腕の長さに応じて、被介護者Ｚが捕まるベルト把持部６２の高さ調節を行うことができる。すなわち、把持部付補助ベルト６０を巻きつける位置を調節することにより、より胸に近い高さにベルト把持部６２を配置させたり、腰下の高さにベルト把持部６２を配置させることができる。このように、把持部付補助ベルト６０を備えることにより、被介護者Ｚの体格

にあった位置にベルト把持部６２を配置することができる。

[0087] 本実施形態によれば、把持部付補助ベルト６０は着脱可能に構成されているため、把持部付補助ベルト６０が必要ない場合には取り外すことにより、上衣のデザインをすっきり保つことができる。

符号の説明

[0088] Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅ、Ｆ、Ｇ　把持部付上衣

１０、４０　上衣本体

１１、４１　袖

１１ａ、４１ａ　袖口

２０　把持部

２１０　帯状把持部

２２０　差込部

３０　袖口把持部

５０　補助帯体

６０　把持部付補助ベルト

Ｘ　着用者

Ｙ　子供

Ｚ　被介護者

請求の範囲

[請求項1] 両袖を有した上衣本体と、

この上衣本体に設けられる把持部と、を備え、

前記把持部は、左右の袖にそれぞれ設けられる複数の袖把持部を有し、

前記上衣本体は、長袖に形成されており、

前記袖把持部は、上腕位置周辺に設けられる上腕把持部と、

前腕位置周辺に設けられる前腕把持部と、を有していることを特徴とする、把持部付上衣。

[請求項2] 前記袖把持部は、袖口周辺に設けられる袖口把持部をさらに有していることを特徴とする、請求項１に記載の把持部付上衣。

[請求項3] 両袖を有した上衣本体と、

この上衣本体に設けられる把持部と、を備え、

前記把持部は、左右の袖にそれぞれ設けられる複数の袖把持部を有し、

前記上衣本体は、半袖に形成されており、

前記袖把持部は、上腕位置周辺に設けられる上腕把持部と、

袖口周辺に設けられる袖口把持部と、を有していることを特徴とする、把持部付上衣。

[請求項4] 前記袖口把持部は、袖口に接続される基端と、自由端と、を有し、

前記袖口には、前記自由端を固定する固定手段が設けられていることを特徴とする、請求項２又は請求項３に記載の把持部付上衣。

[請求項5] 前記把持部は、肩口位置周辺に設けられる肩口把持部と、

脇下位置周辺に設けられる脇下把持部と、

腰横位置周辺に設けられる腰横把持部と、をさらに有していることを特徴とする、請求項１～４の何れかに記載の把持部付上衣。

[請求項6] 前記把持部は、胸位置周辺に設けられる胸把持部と、

胸下位置周辺に設けられる胸下把持部と、

胸下腹部位置周辺に設けられる胸下腹部把持部と、をさらに有していることを特徴とする、請求項１～４の何れかに記載の把持部付上衣。

[請求項7] 前記把持部は、

背中位置周辺に設けられる背中把持部をさらに有していることを特徴とする、請求項１～６の何れかに記載の把持部付上衣。

[請求項8] 前記把持部の間に架け渡される補助帯体をさらに備え、

前記補助帯体は、左側の袖把持部から右側の袖把持部まで架け渡される腕側面補助帯体を有していることを特徴とする、請求項１～７の何れかに記載の把持部付上衣。

[請求項9] 前記補助帯体は、

左側の肩口把持部から右側の腰横把持部まで架け渡される第１の背面補助帯体と、

右側の肩口把持部から左側の腰横把持部まで架け渡される第２の背面補助帯体と、

左側の肩口位置周辺から左側の腰横把持部まで架け渡される左腹側面補助帯体と、

右側の肩口位置周辺から右側の腰横把持部まで架け渡される右腹側面補助帯体と、をさらに有していることを特徴とする、請求項８に記載の把持部付上衣。

[請求項10] 前記把持部は、帯状に形成された帯状把持部を有し、

前記帯状把持部の両端が前記上衣本体に固定されていることを特徴とする、請求項１～９の何れかに記載の把持部付上衣。

[請求項11] 前記把持部は、少なくとも１つの指を差込可能な切れ込み部を有していることを特徴とする、請求項１～１０の何れかに記載の把持部付上衣。

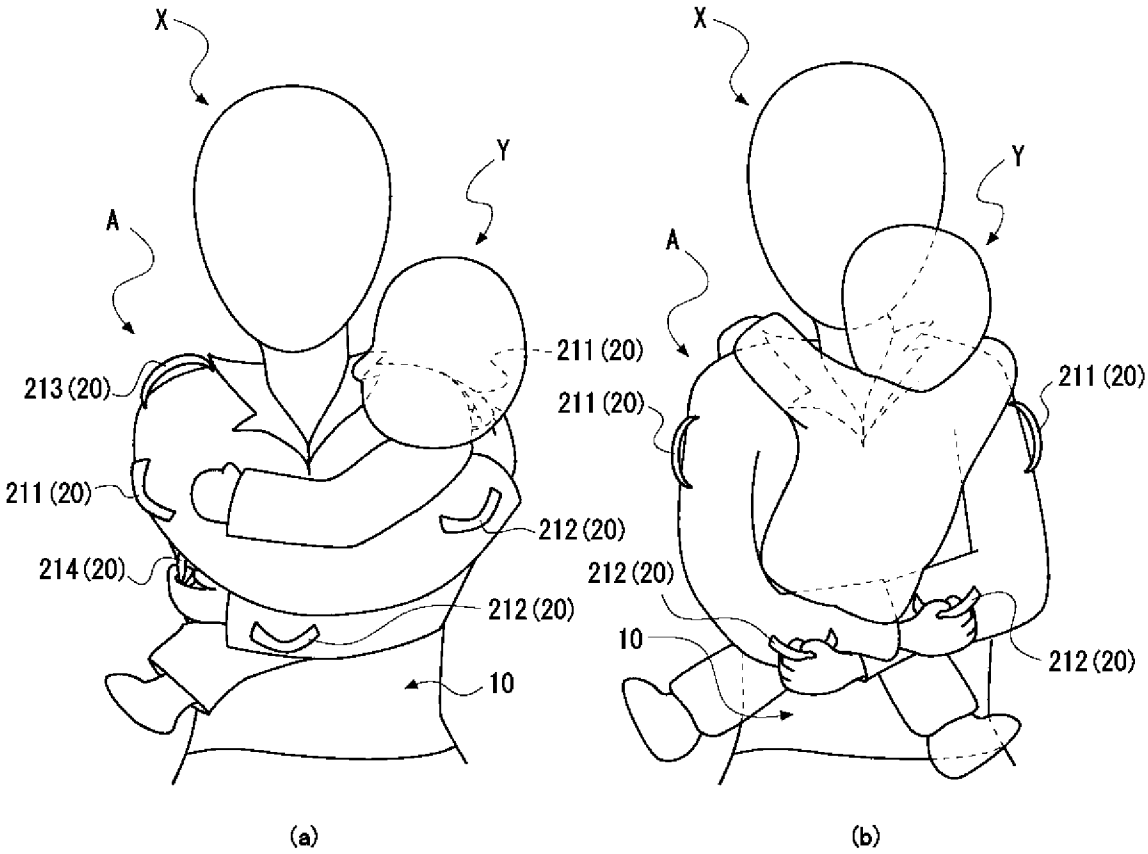
[請求項12] 前記把持部は、前記切れ込み部に接続される袋部をさらに有していることを特徴とする、請求項１１に記載の把持部付上衣。

[請求項13] 前記上衣本体に着脱可能な把持部を有する把持部付補助ベルトをさら

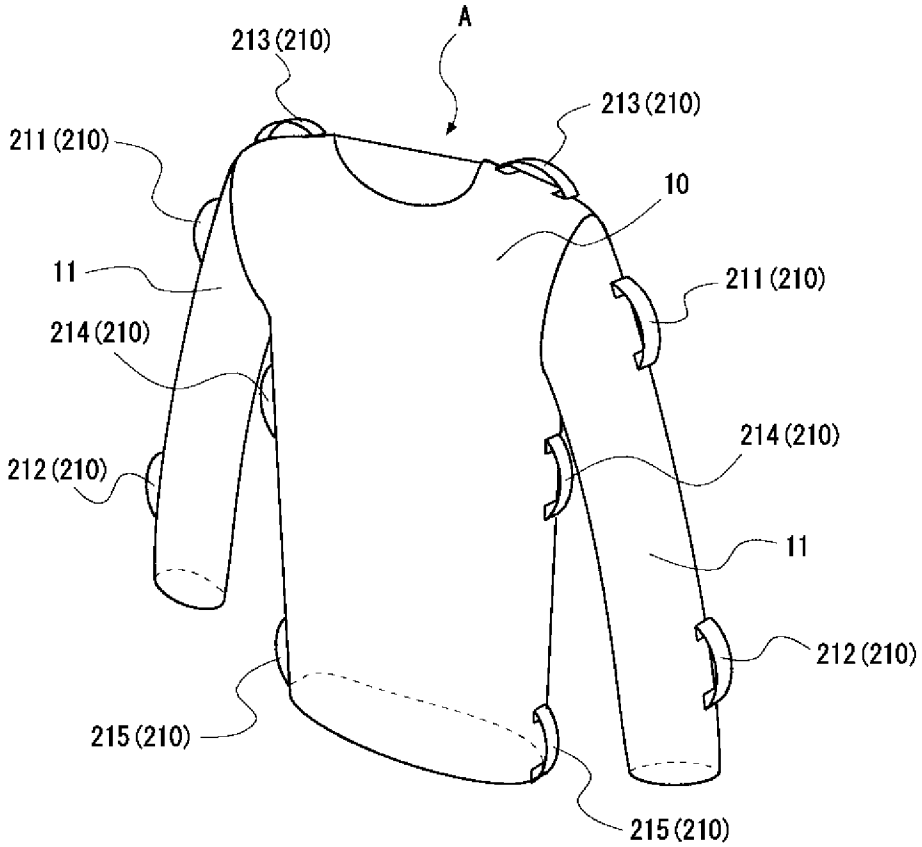
に備えていることを特徴とする、請求項１～１２の何れかに記載の把持部付上衣。

[請求項14] 前記上衣本体及び前記把持部は、洗濯可能な布地で構成されていることを特徴とする、請求項１～１３の何れかに記載の把持部付上衣。

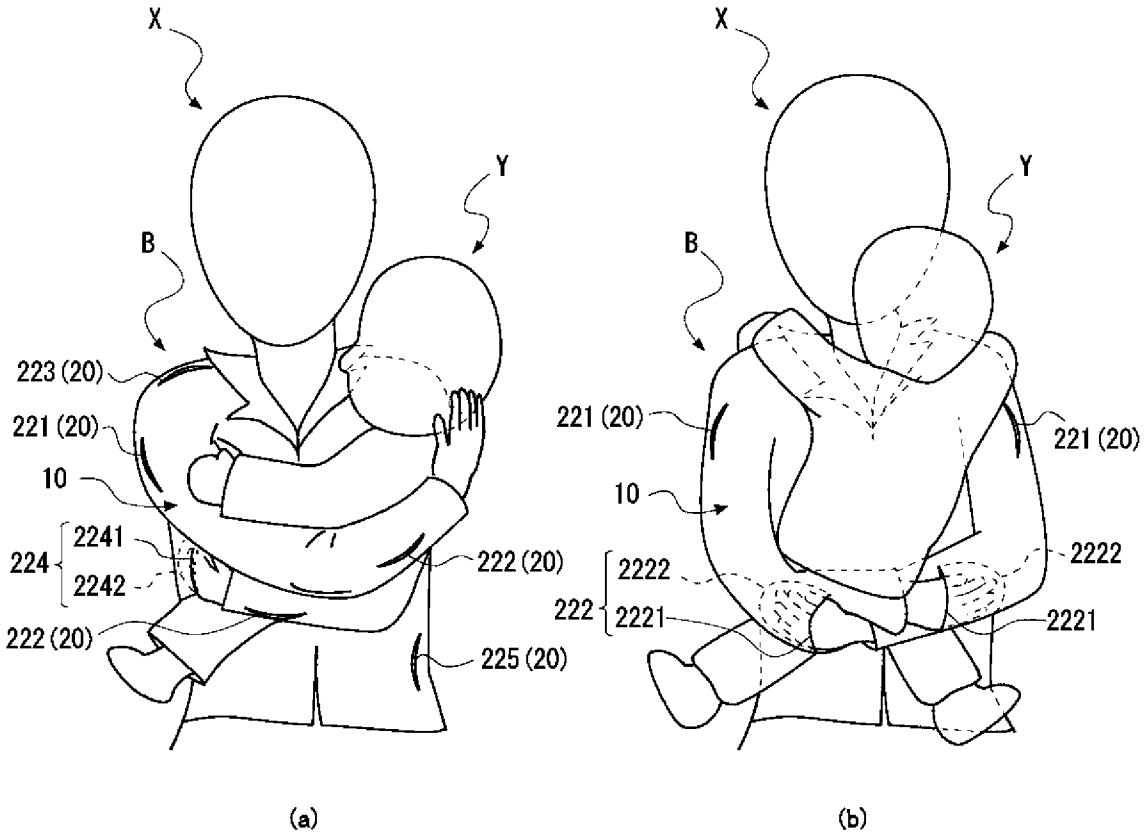
[図1]


X
Y
A
213 (20)
211 (20)
214 (20)
211 (20)
212 (20)
212 (20)
10
(a)
X
Y
A
211 (20)
211 (20)
211 (20)
212 (20)
10
212 (20)
(b)

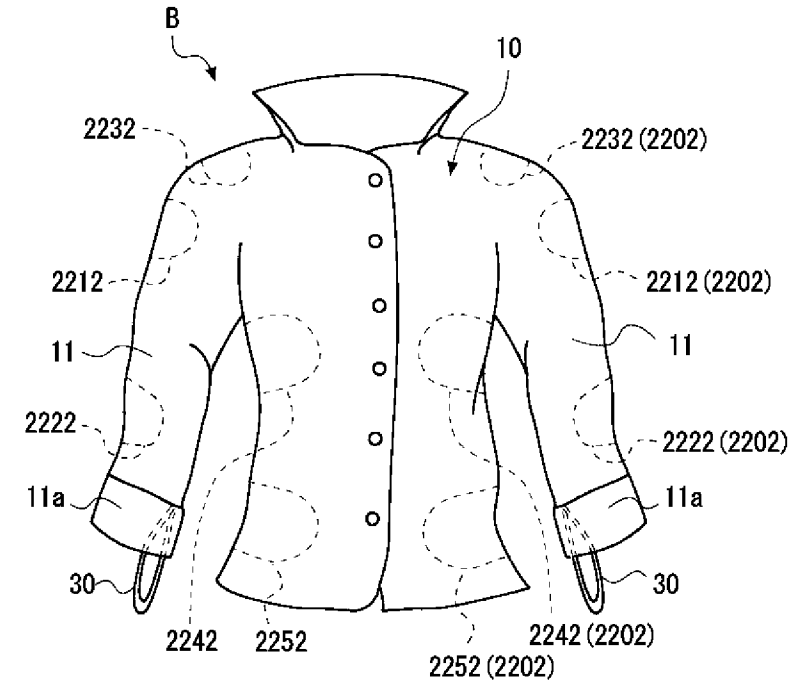
[図2]


A
213 (210)
213 (210)
211 (210)
10
11
211 (210)
214 (210)
214 (210)
212 (210)
11
212 (210)
215 (210)
215 (210)

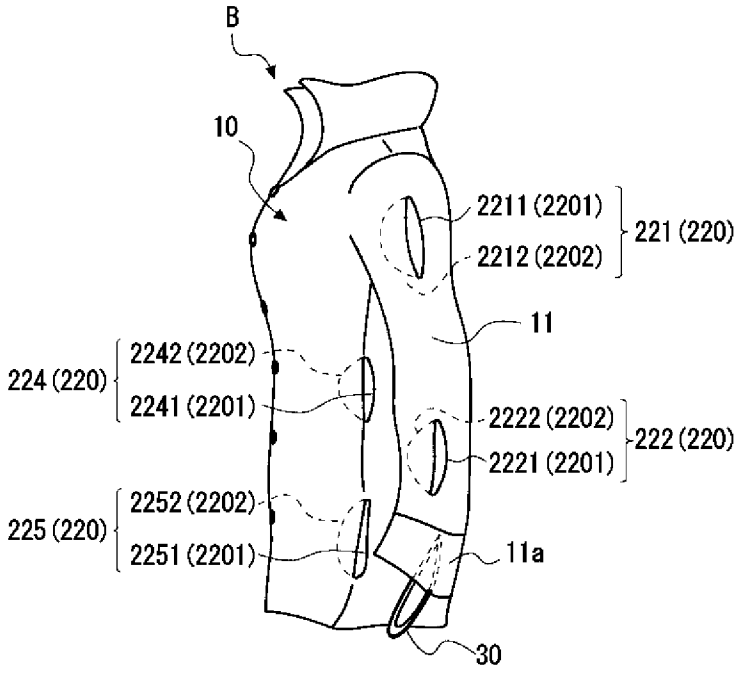
[図3]


X
Y
B
223 (20)
221 (20)
10
224
2241
2242
222 (20)
222 (20)
225 (20)
(a)
X
Y
B
221 (20)
221 (20)
10
2222
222
2222
2221
2221
(b)

[図4]

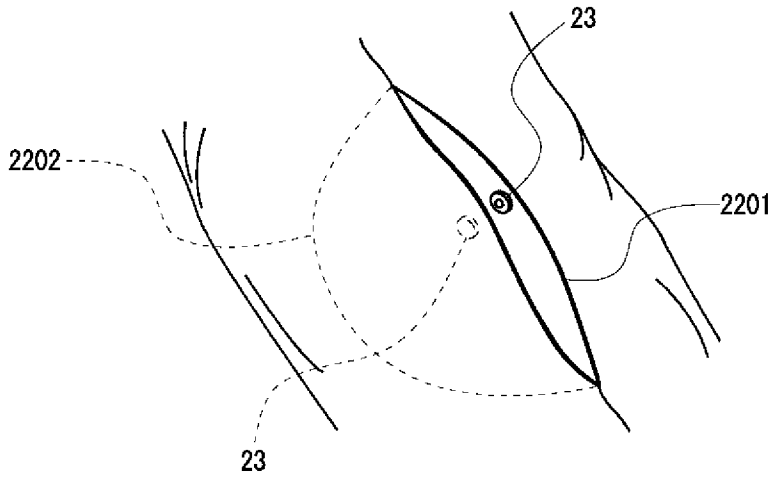

B
10
2232
2232 (2202)
2212
2212 (2202)
11
11
2222
2222 (2202)
11a
11a
30
30
2242
2252
2242 (2202)
2252 (2202)

(a)

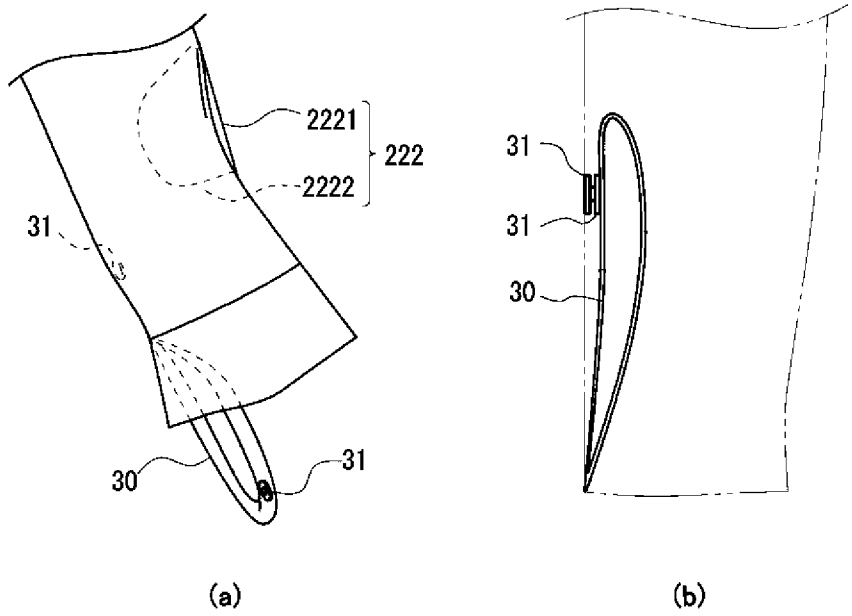

B
10
2211 (2201)
2212 (2202)
221 (220)
11
224 (220)
2242 (2202)
2241 (2201)
2222 (2202)
2221 (2201)
222 (220)
225 (220)
2252 (2202)
2251 (2201)
11a
30

(b)

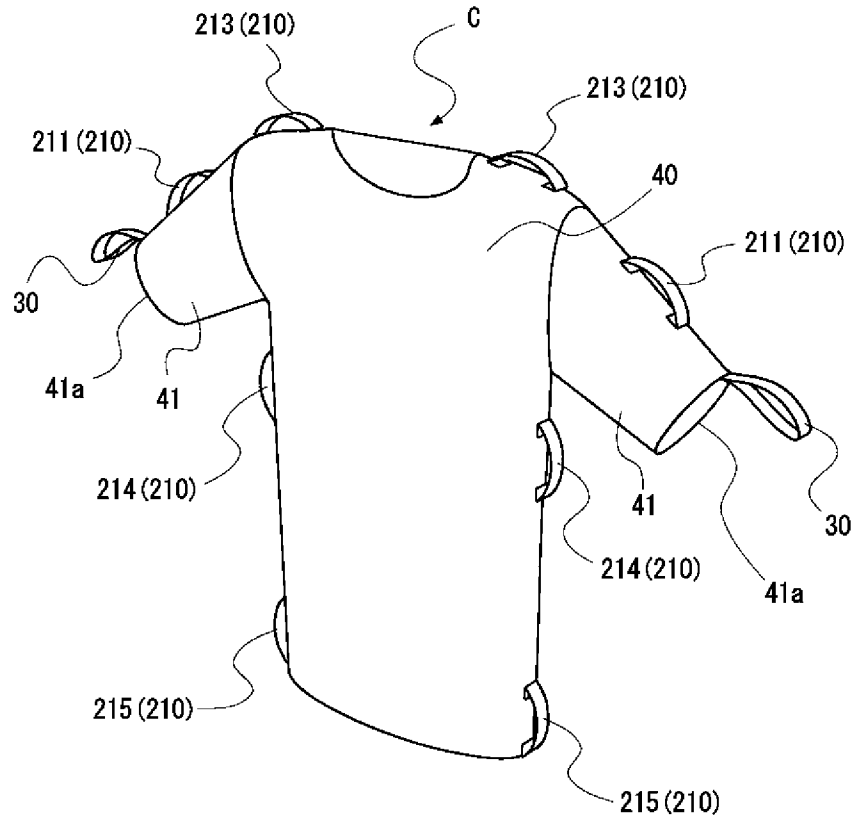
[図5]



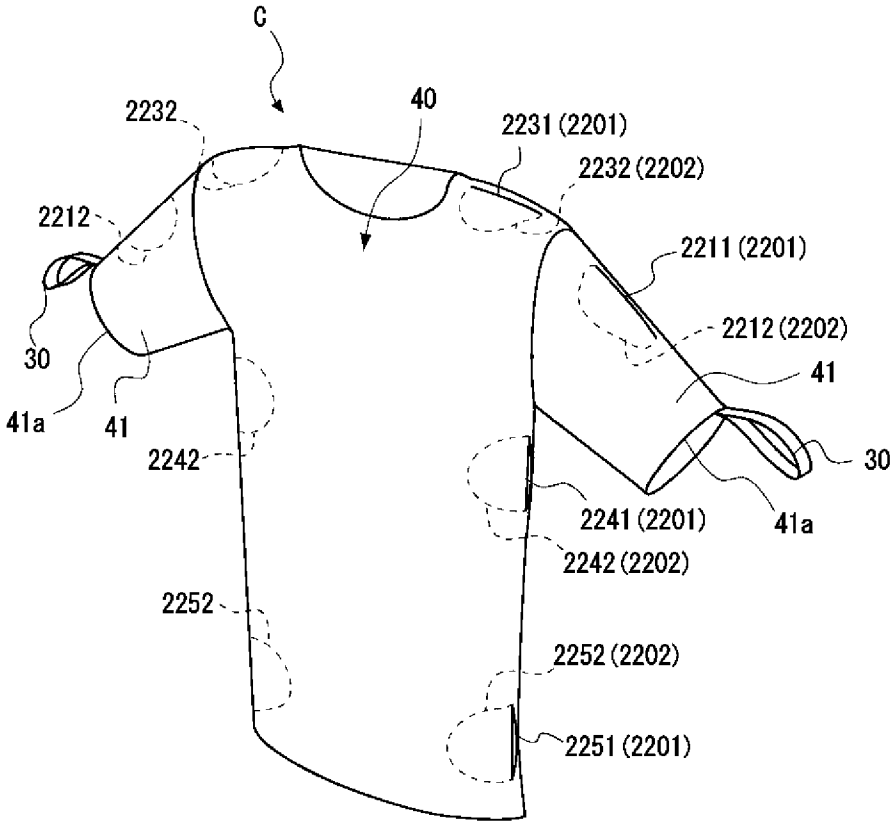
[図6]



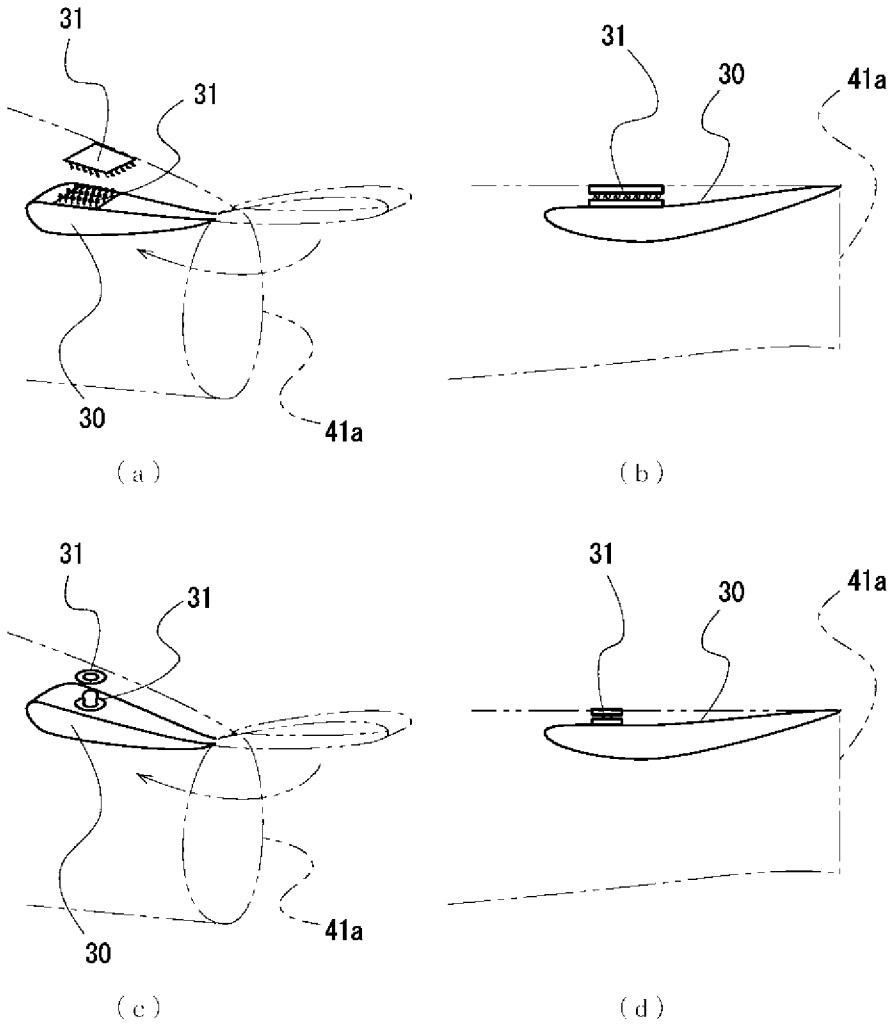
[図7]


213 (210)
C
213 (210)
211 (210)
40
211 (210)
30
41a
41
214 (210)
41
30
214 (210)
41a
215 (210)
215 (210)

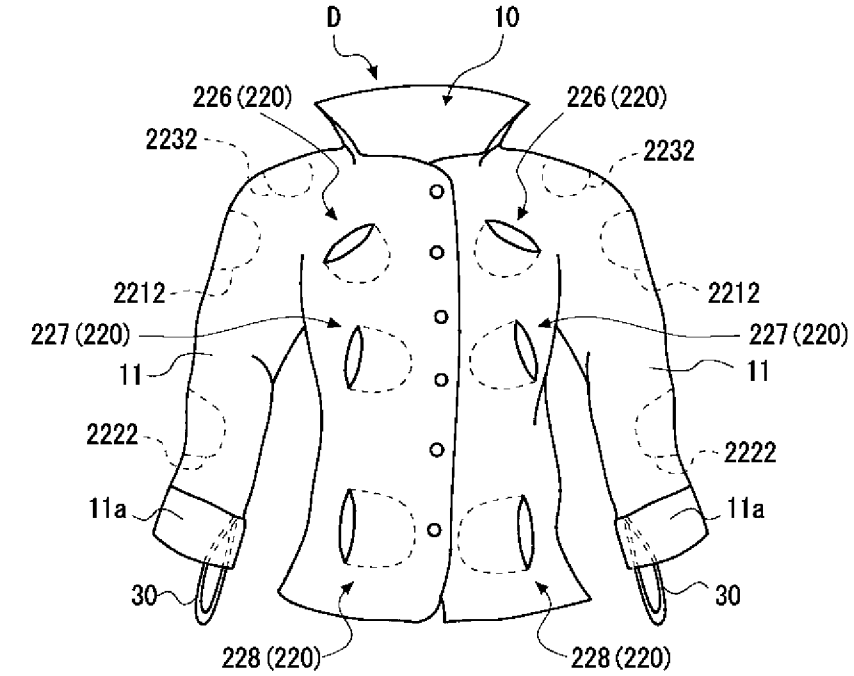
[図8]


C
2232
40
2231 (2201)
2232 (2202)
2212
2211 (2201)
2212 (2202)
30
41
41a
41
2242
30
2241 (2201)
41a
2242 (2202)
2252
2252 (2202)
2251 (2201)

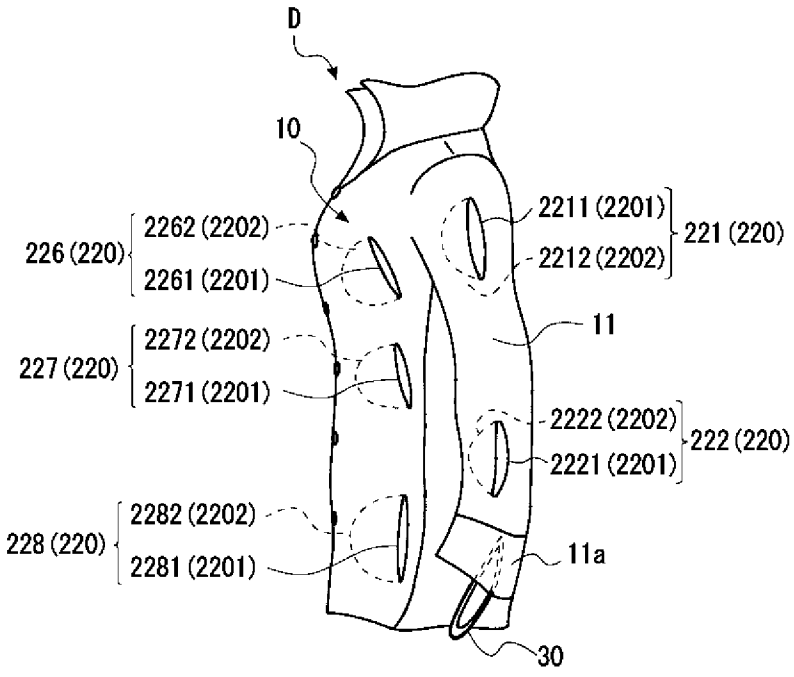
[図9]



[図10]

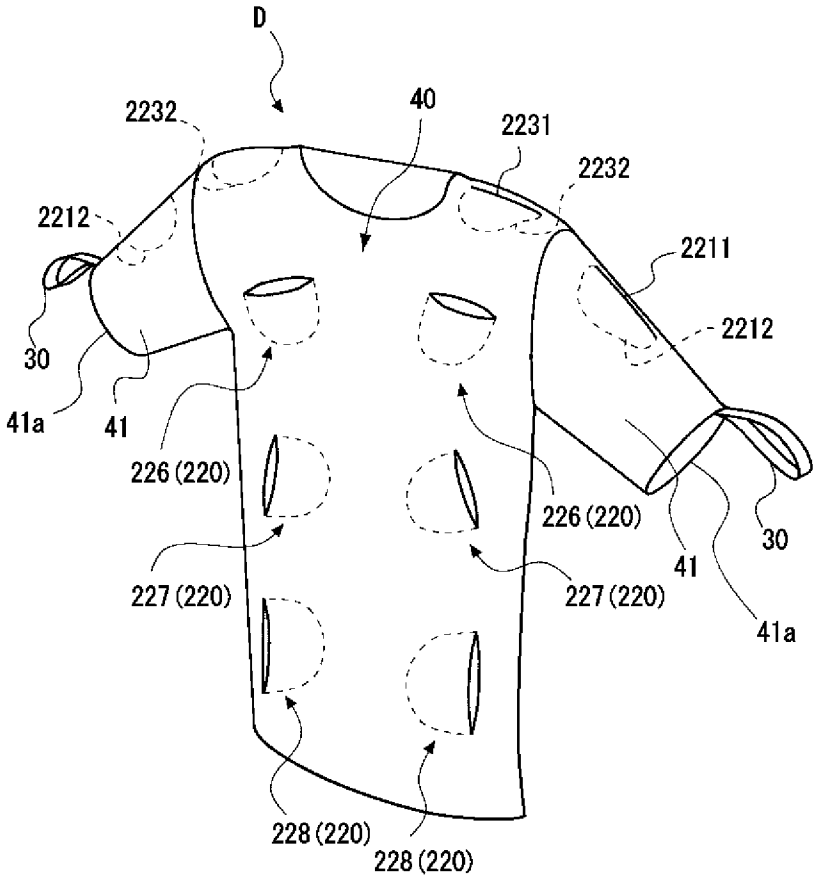

D
10
226 (220)
226 (220)
2232
2232
2212
2212
227 (220)
227 (220)
11
11
2222
2222
11a
11a
30
30
228 (220)
228 (220)

(a)

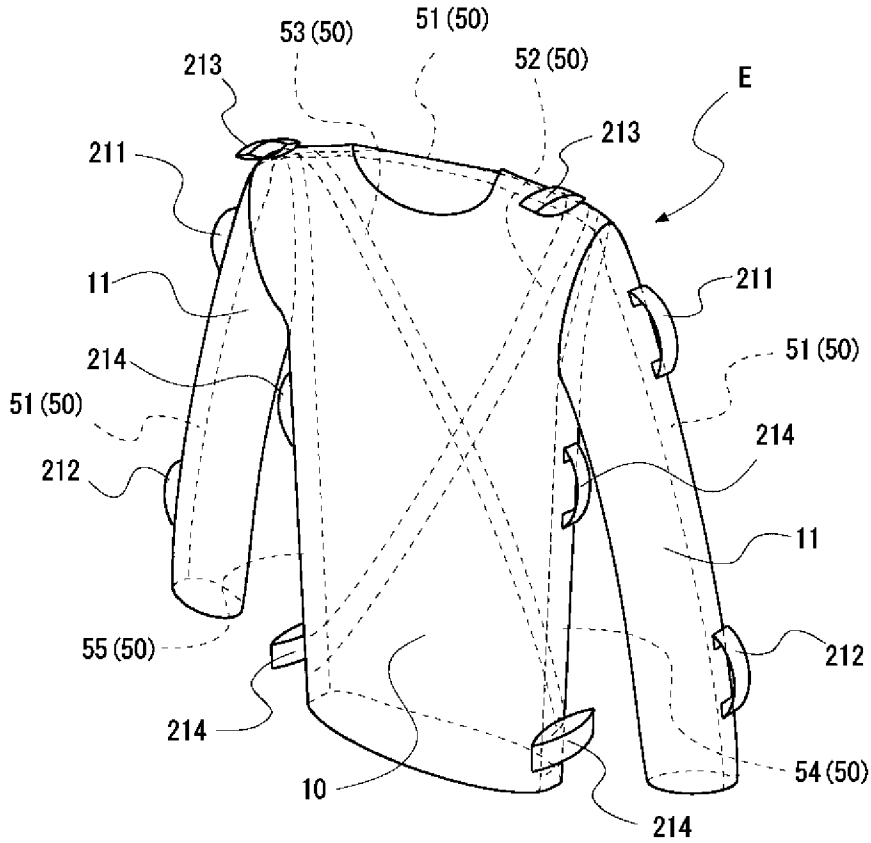

D
10
226 (220)
2262 (2202)
2261 (2201)
227 (220)
2272 (2202)
2271 (2201)
228 (220)
2282 (2202)
2281 (2201)
2211 (2201)
2212 (2202)
221 (220)
11
2222 (2202)
2221 (2201)
222 (220)
11a
30

(b)

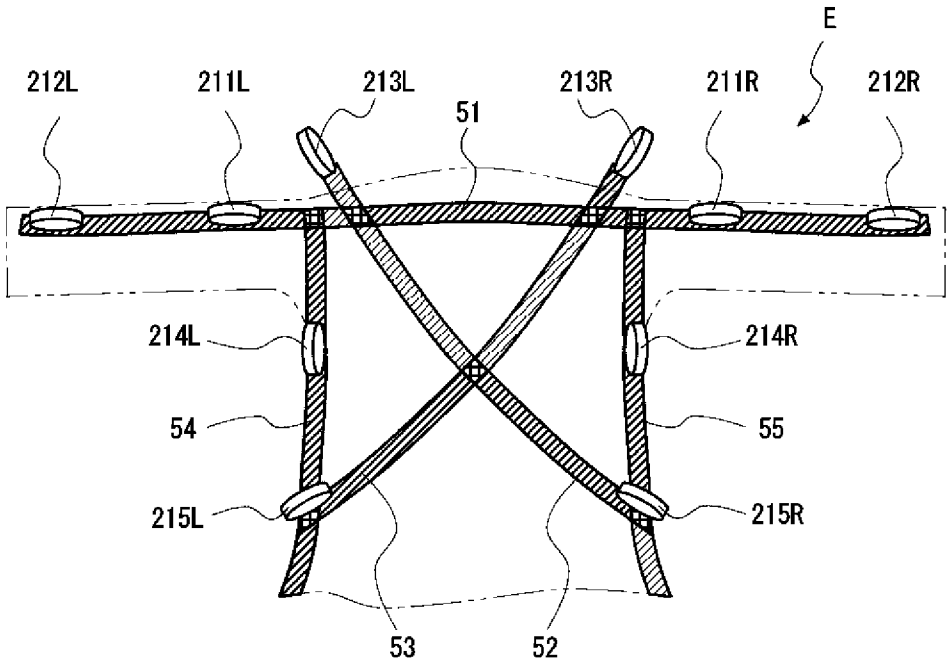
[図11]


D
40
2232
2231
2232
2212
2211
2212
30
41a
41
226 (220)
226 (220)
41
30
227 (220)
227 (220)
41a
228 (220)
228 (220)

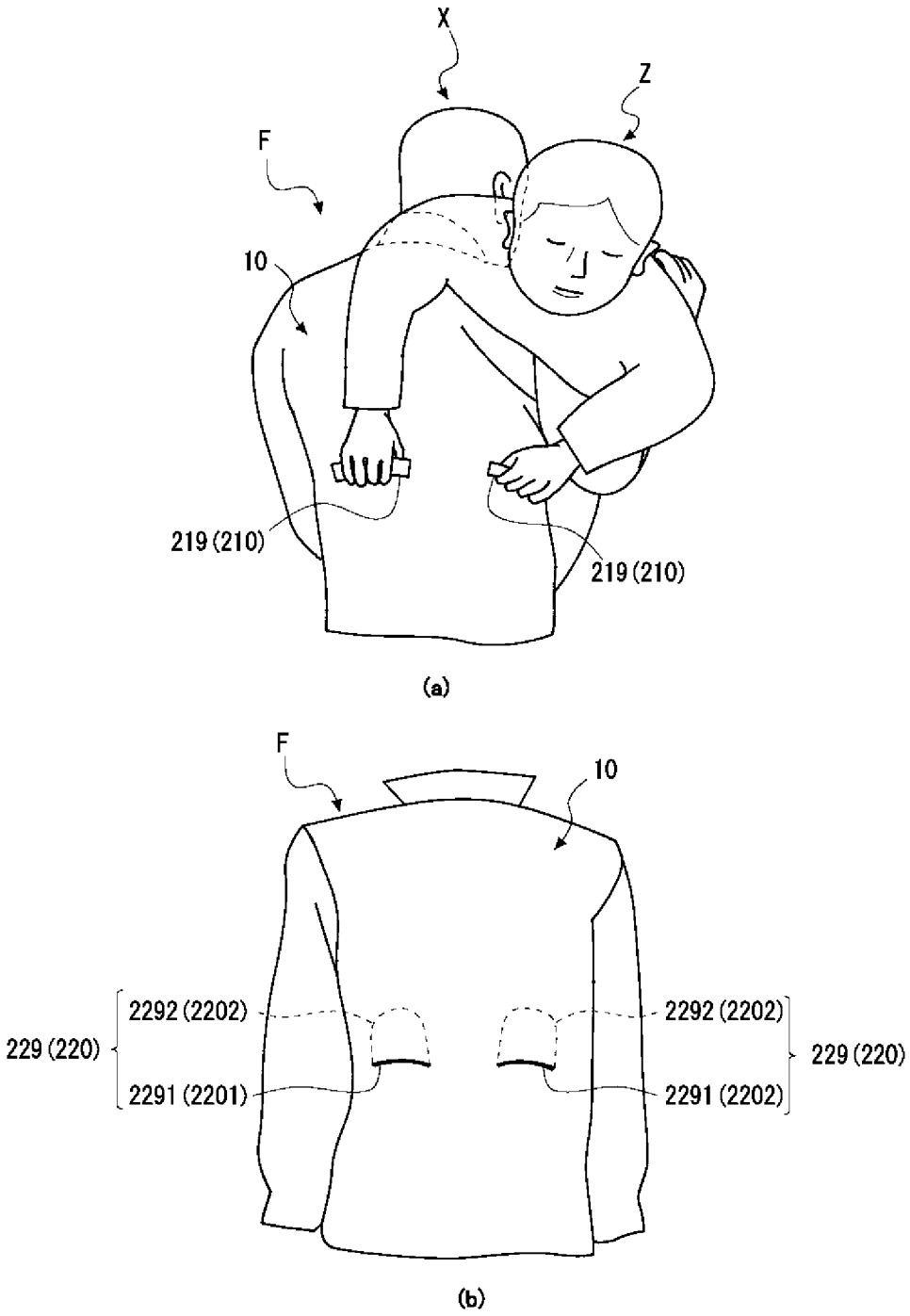
[図12]


53 (50)
51 (50)
213
52 (50)
E
213
211
211
11
51 (50)
214
214
51 (50)
212
11
55 (50)
212
214
54 (50)
10
214

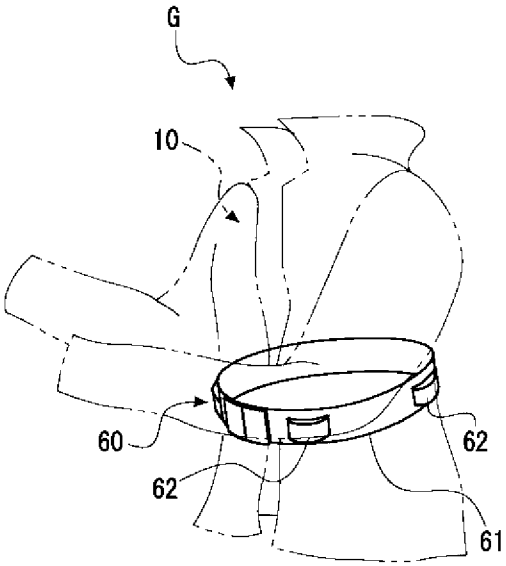
[図13]


E
212L
211L
213L
51
213R
211R
212R
214L
214R
54
55
215L
215R
53
52

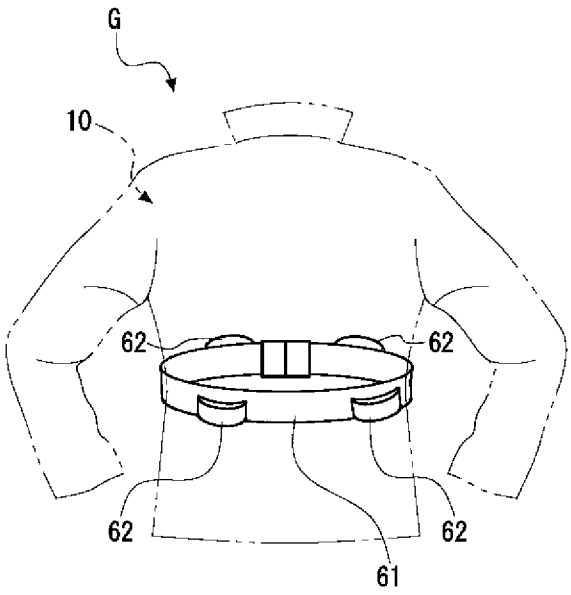
[図14]


X
Z
F
10
219 (210)
219 (210)
(a)
F
10
229 (220)
2292 (2202)
2291 (2201)
2292 (2202)
2291 (2202)
229 (220)
(b)

[図15]



(a)



(b)

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2017/004647

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
A41B1/08(2006.01)i, *A41D1/00*(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
A41B1/08, A41D1/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2017
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2017	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2017

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 11-81010 A (Kabushiki Kaisha Nursing Science Academy), 26 March 1999 (26.03.1999), (Family: none)	1-14
A	JP 2009-273628 A (Keiko UGAWA), 26 November 2009 (26.11.2009), (Family: none)	1-14
A	JP 3121213 U (People Co., Ltd.), 27 April 2006 (27.04.2006), (Family: none)	1-14
A	JP 3176576 U (Chiyako YAMAMOTO), 28 June 2012 (28.06.2012), (Family: none)	1-14

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report
02 May 2017 (02.05.17)	16 May 2017 (16.05.17)

Name and mailing address of the ISA/	Authorized officer
Japan Patent Office 3-4-3,Kasumigaseki,Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915,Japan	Telephone No.

国際調査報告

国際出願番号　ＰＣＴ／ＪＰ２０１７／００４６４７

Ａ．　発明の属する分野の分類（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A41B1/08(2006.01)i, A41D1/00(2006.01)i

Ｂ．　調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A41B1/08, A41D1/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	１９２２－１９９６年
日本国公開実用新案公報	１９７１－２０１７年
日本国実用新案登録公報	１９９６－２０１７年
日本国登録実用新案公報	１９９４－２０１７年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

Ｃ．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
A	JP 11-81010 A（株式会社ナーシングサイエンスアカデミー）1999.03.26,（ファミリーなし）	1-14
A	JP 2009-273628 A（鵜川　恵子）2009.11.26,（ファミリーなし）	1-14
A	JP 3121213 U（ピープル株式会社）2006.04.27,（ファミリーなし）	1-14
A	JP 3176576 U（山元　千矢子）2012.06.28,（ファミリーなし）	1-14

☐　Ｃ欄の続きにも文献が列挙されている。

☐　パテントファミリーに関する別紙を参照。

＊　引用文献のカテゴリー

「Ａ」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「Ｅ」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「Ｌ」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）

「Ｏ」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「Ｐ」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献

「Ｔ」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「Ｘ」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Ｙ」特に関連のある文献であって、当該文献と他の１以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「＆」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日	国際調査報告の発送日
０２．０５．２０１７	１６．０５．２０１７

国際調査機関の名称及びあて先
日本国特許庁（ＩＳＡ／ＪＰ）
郵便番号１００－８９１５
東京都千代田区霞が関三丁目４番３号

特許庁審査官（権限のある職員）　３Ｂ　９８２３
▲高▼辻　将人
電話番号　０３－３５８１－１１０１　内線　３３２０